

記者発表資料
 平成23年2月16日(水)
 問合せ先: 疾病予防対策課
 担当: 嘉悦
 連絡: 840-2216

子宮頸がん予防ワクチン等の接種費用助成開始について

平成23年3月1日から、子宮頸がん予防ワクチン・ヒブ・肺炎球菌ワクチンの接種の費用助成を開始します。所得制限及び自己負担金はありません。

経緯

H22.11.26 「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金」を含む平成22年度国の補正予算成立

H23.2.8 平成22年度さいたま市補正予算(案)可決

予算(単位:千円)

	22年度	23年度
歳入	80,272	963,275
歳出	380,492	2,545,178
一般財源	300,220	1,581,903

平成23年度予算(案)については、平成23年2月議会に上程中

助成ワクチン・対象者等

	細菌・ウイルス	特徴	対象人数	対象年齢・時期別接種回数
子宮頸がん予防	HPV(ヒトパピローマウイルス)	子宮頸がんの起因ウイルスであり、性行為により感染する。HPV感染の多くは一過性に終わるが、ごく一部では感染が持続し、それに宿主側の因子が絡み合って初めて子宮頸がんに進展する。	約24,000人	中学1年生～高校1年生女子 平成23年度のみ高校2年生女子も実施予定 (H22年度の対象期間が短いことによる経過措置) 1回目接種後1か月後、6か月後 計3回
細菌性髄膜炎	インフルエンザ菌b型	4か月～5歳の細菌性髄膜炎の60～65%の起因菌である。重症感染症として、髄膜炎、肺炎、敗血症などがあり、後遺症を残す可能性がある。	約63,000人	(1) 2か月～7か月未満で開始 4週間～8週間の間隔で3回 } 計4回 1年後に1回追加 (2) 7か月～12か月未満で開始 4週間～8週間の間隔で2回 } 計3回 1年後に1回追加 (3) 1歳～4歳時で開始 計1回

細菌性髄膜炎	肺炎球菌	肺炎球菌 4ヶ月～5歳の細菌性髄膜炎の20～25%起 因菌である。 侵襲性感染症(髄膜炎・菌血症)を引き起 す。 髄膜炎による死亡、後遺症が多い。 約63,000人	(1) 2か月～7か月未満で開始	}	計4回
			27日以上の間隔で3回 60日以上後に1回追加		
			(2) 7か月～12か月未満で開始	}	計3回
			27日以上の間隔で2回 60日以上後に1回追加		
(3) 1歳時で開始		計2回			
(4) 2歳～4歳時で開始		計1回			

市民周知

さいたま市のホームページ
市報さいたま
準備ができ次第、順次対象者への個別発送